



ダイヤルプラン

この章では、Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) が、外部システムによって使用される番号計画に準拠するように、社内の内線番号を拡張または操作するための機能について説明します。

- [ダイヤルプランについて \(1 ページ\)](#)
- [ダイヤルプランの構成 \(8 ページ\)](#)
- [ダイヤルプラン機能の構成例 \(26 ページ\)](#)
- [ダイヤルプラン機能の機能情報 \(28 ページ\)](#)

ダイヤルプランについて

電話番号計画

Cisco Unified CME システムをインストールして、実績ある電話番号計画がある旧式のテレフォニーシステムを置き換える場合は、以前の番号計画を保持できます。Cisco Unified CME は、柔軟な内線番号の長さをサポートし、内線ダイヤルと E.164 公衆電話番号ダイヤル間の自動変換を実行できます。

ルータは、音声コールを受信した場合、コール情報内の着信者番号（完全な E.164 電話番号）と POTS ダイヤルピアの宛先パターンとして設定された番号を比較することによって、発信ダイヤルピアを選択します。次に、ルータは、着信者番号と一致する宛先パターンに対応する左揃えの番号を抽出します。プレフィックスを設定した場合、そのプレフィックスは他の番号の先頭に追加され、ルータがダイヤルするダイヤル文字列が作成されます。宛先パターンのすべての番号が抽出されると、ダイヤルトーンが鳴ります（接続された装置によって異なります）。

Cisco Unified CME を正常に動作させるには、将来の拡張をサポートする電話番号計画が必要です。また、番号計画は、同じ VoIP ネットワーク上にある他の番号や、一元化されたボイスメールシステムに含まれている他の番号と重複または競合してはいけません。

Cisco Unified CME では、同じ内線番号で設定された共有回線と複数の回線がサポートされます。つまり、1つの内線番号を共有してその番号に対応するように、複数の電話機をセットアップできます。また、1台の電話機で複数の回線ボタンを同じ内線番号に割り当てて、小さいイントグループを作成することもできます。

複数の Cisco Unified CME サイトを設定する場合は、サイト間のコールを処理する方法を決定する必要があります。Cisco Unified CME 電話間のコールは、PSTN または VoIP のいずれかを通じてルーティングできます。VoIP でコールをルーティングしている場合は、次の 3 つのいずれかを選択する必要があります。

- 固定長の内線番号のグローバルプールを使用して、コールをルーティングする。たとえば、すべてのサイトに 5000～5999 の範囲にある一意の内線番号を割り当て、ゲートキーパーによってルーティングを管理します。この方式を選択する場合は、各サイトに内線番号の部分範囲を割り当てて、番号の割り当てが重複しないようにします。各 Cisco Unified CME システムに割り当てた番号の範囲について、慎重に記録を保持する必要があります。
- ローカル内線番号と各 Cisco Unified CME サイトの特殊プレフィックスを使用して、コールをルーティングする。この選択肢では、複数のサイトで同じ内線番号を使用できます。
- E.164 PSTN 電話番号を使用して、Cisco Unified CME サイト間で VoIP を通じてコールをルーティングする。この場合、サイト間での発信者は、PSTN エリアコードとローカルプレフィックスを使用して、Cisco Unified CME システム間でコールをルーティングします。

ゲートキーパーに複数の Cisco Unified CME システム間でコールをルーティングさせることを選択する場合は、使用する内線番号形式に関して追加の制約が発生することがあります。たとえば、ゲートキーパーに登録できるのが PSTN 形式の番号だけという場合があります。ゲートキーパーでは、異なる Cisco Unified CME システムで重複する電話番号を登録できないことがありますが、この制限は克服できる場合があります。Cisco Unified CME では、2～5 桁の内線番号または 7～10 桁の PSTN 番号のいずれかを選択して登録できます。したがって、PSTN 番号だけを登録すると、ゲートキーパーでの内線番号の重複の検出を防止できることがあります。

社内の内線番号に対する公衆電話番号のマッピングでは、番号文字列が単純に切り捨てられるだけではありません。照合するダイヤルプランパターンを定義することによって、番号を置換することもできます。ダイヤルプランについては、「[ダイヤルプランパターン \(2 ページ\)](#)」を参照してください。より高度な番号の操作は、音声変換ルールおよび音声変換プロファイルで管理されます。これについては、「[音声トランスレーションルールと音声トランスレーションプロファイル](#)」項で説明されています。

また、PSTN への接続を提供する電話会社によって割り当てられた内線番号の範囲を使用する必要があるため、PSTN から直接ダイヤルできる電話機の番号スキーマの選択肢は制限されます。たとえば、電話会社から 408 555-0100～408 555-0199 の範囲を割り当てられた場合、内線番号にダイヤルイン方式 (DID) でアクセスするときは、内線番号の範囲として 100～199 だけを割り当てられる場合があります。DID の詳細については、「[ダイヤルイン トランク回線 \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

ダイヤルプランパターン

ダイヤルプランパターンによって、短縮内線番号を完全修飾 E.164 番号に拡張できます。複数の Cisco Unified Cisco Mobility Express でネットワークを構成する場合にダイヤルプランパターンを使用すると、適切な発信者番号、内線番号、または E.164 番号が確実にターゲット

Cisco Unified Cisco Mobility Express に提供され、着信側の電話機のディスプレイに表示されるようになります。ルータが1台のネットワークでは、ダイヤルプランパターンを使用する必要はありません。

SCCP 電話機に対してディレクトリ番号を定義する場合、Cisco Unified Cisco Mobility Express システムによって、ephone-dn エンドポイントを接続先とする POTS ダイアルピアが自動的に作成されます。Cisco Unified CME に直接接続される SIP 電話機では、ダイアルピアは電話機を登録したときに自動的に作成されます。デフォルトでは、Cisco Unified CME は、各ディレクトリ番号に対して1つの POTS ダイアルピアを作成します。

たとえば、番号 1001 の ephone-dn が定義された場合、次の POTS ダイアルピアが自動的に作成されます。

```
dial-peer voice 20001 pots
destination-pattern 1001
voice-port 50/0/2
```

ダイヤルプランパターンは、作成する拡張番号に対して追加のダイアルピアを構築します。ダイヤルプランパターンを設定し、それがディレクトリ番号と一致する場合は、2つの POTS ダイアルピアが作成されます（1つは短縮番号用、もう1つは完全な E.164 直通ダイヤル電話番号用）。

たとえば、「40855500..」などの 1001 と一致するダイヤルプランパターンを定義する場合、0001 と 4085550001 の両方の番号が完成するように、別のダイアルピアが作成されます。この例では、自動的に作成される追加ダイアルピアは次のようになります。

```
dial-peer voice 20002 pots
destination-pattern 40855510001
voice-port 50/0/2
```

複数のルータがあるネットワークでは、ローカル内線番号スキーマが互いにオーバーラップしている可能性があるため、ダイヤルプランパターンを使用して内線番号を E.164 番号に拡張する必要があることがあります。複数のルータがあるネットワークには、ネットワークを介してコールをルーティングするゲートキーパーなどの機能があります。このような機能では、ネットワーク内のすべての番号が一意になるように、E.164 番号が要求されます。ダイヤルプランパターンを定義して、ゲートキーパーに登録するための一意の E.164 番号に内線番号を拡張します。E.164 番号の詳細については、[E.164 の機能拡張（5 ページ）](#)を参照してください。

複数のダイヤルプランパターンが定義される場合、内線番号が最も低い番号のダイヤルプランパターンタグから開始するシーケンシャルな順序のパターンと一致します。パターンが内線番号と一致すると、そのパターンが拡張番号を生成するために使用されます。その後、さらにパターンが内線番号と一致する場合でも、それらのパターンは使用されません。

ダイヤルイン トランク回線

ダイヤルイン（DID）とは、一方向の着信トランッキングメカニズムです。これにより、外部の発信者は、受付またはその他の仲介なしで、特定の内線を直接コールできます。

提供されるこのサービスでは、発信者によってダイヤルされた末尾の数桁（一般的に3～4桁）が、特殊な DID トランク上の着信側に転送されます。たとえば、555-0000～555-0999のすべての電話番号を、20の DID トランクがある企業に割り当てることができます。発信者がこの範囲のいずれかの番号をダイヤルした場合、そのコールは使用可能なトランクで転送されます。発信者が555-0234をダイヤルした場合、番号2、3、および4が転送されます。オペレータの操作なしでコールを内線234で受信できるよう、これらの DID トランクは PBX で終端できます。これにより、555-0234と他の999回線すべてに、直接の外部回線があるかのように動作し、1,000の内線電話番号を利用するために必要なトランクは20だけ済みます。DIDを使用することにより、企業は、使用される可能性がある接続ごとに PBX の物理回線を必要とすることなく、社内の各個人または職場に対する個別の電話番号を顧客に提供できます。通常の PBX サービスと比較して、DIDによって交換手のコストが削減されます。コールはより高速に転送され、発信者は企業ではなく個人に通话している感覚を受けます。

ダイヤルプランパターンは、DID 番号への通話を可能にするために必要です。PSTN が、「4085550234」に対する DID 通話を Cisco Unified Cisco Mobility Express システムに接続する場合、システムがその通話をルーティングできるように内線番号「234」も転送します。

音声トランスレーションルールと音声トランスレーションプロファイル

変換ルールは、ダイヤル番号を操作して、内部または外部の番号付けスキームに準拠させます。音声変換プロファイルを使用すると、変換ルールをグループ化して、次のタイプの番号に適用できます。

- 着信者番号 (DNIS)
- 発信者番号 (ANI)
- リダイレクトされた着信者番号
- リダイレクトされたターゲット番号：これは、転送先の番号とコール転送の最終的な宛先の番号です。Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョンの SIP 電話機でサポートされます。

一連のトランスレーションルールを定義し、トランスレーションプロファイルに割り当てた後に、ディレクトリ番号に基づいて、Cisco Unified CME ルータ間で着信および発信コールレックにそのルールを適用できます。トランスレーションルールでは、正規表現との照合と部分文字列の置換を実行できます。番号が照合パターン、番号計画、およびルール内にあるタイプと一致する場合、トランスレーションルールによって入力番号の部分文字列が置換されます。

構成情報については、[Cisco Cisco Mobility Express 3.2 バージョン以降の音声変換ルールの定義 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

音声変換ルールおよびプロファイルの例は、「[音声変換ルール](#)」テクニカルノートおよび「[音声変換プロファイルを使用した番号変換](#)」テクニカルノートを参照してください。

2次ダイヤルトーン

Cisco Unified Cisco Mobility Express に接続されている Cisco Unified IP Phone にて、セカンダリダイヤルトーンがあります。Cisco Unified Cisco Mobility Express リリース 11.6 以降、セカンダリダイヤルトーンは SIP 電話機と SCCP 電話機の両方でサポートされます。

2次ダイヤルトーンは、電話機のユーザが事前定義 PSTN アクセスプレフィックスをダイヤルしたときに生成され、追加の番号をダイヤルしたときに終了します。たとえば、外部回線に接続するために番号9などの PSTN アクセスプレフィックスをダイヤルした後に、2次ダイヤルトーンが聞こえます。SIP 電話機の場合、電話機の再起動時にダイヤルプランファイルがダウンロードされます。このダイヤルプランファイルには、ダイヤルプランパターンが構成されています。このダイヤルプランパターンに基づいて、電話機は数字を収集するか、パターンにコンマ (,) がある場合はセカンダリダイヤルトーンを再生します。ダイヤルプランファイルに一致するパターンがある場合、通話は電話から発信されます。また、この機能を有効にすると、SIP 電話機で KPML デジット コレクションが無効になることに注意してください。

構成については、「[SCCP電話機用セカンダリダイヤルトーンのアクティブ化 \(20ページ\)](#)」および「[SIP電話機用セカンダリダイヤルトーンのアクティブ化 \(21ページ\)](#)」を参照してください。

E.164 の機能拡張

Cisco Unified CME 8.5 では、+E.164 電話番号形式で電話番号を表現できます。E.164 は国際電気通信連合 (ITU-T) の勧告で、PSTN およびその他のデータ ネットワークで使用される国際公衆電気通信番号計画を定義します。E.164 は電話番号の形式を定義します。先頭に+が付く E.164 電話番号は最大 15 桁で、通常は国際アクセスコードを定義する「+」プレフィックス付きで作成されます。通常の固定電話からこのような番号をダイヤルするには、適切な国際電話プレフィックスを使用する必要があります。

先頭に+が付く E.164 番号は、電話機またはデバイスに対して指定された一意の番号です。世界中の発信者は先頭に+が付く E.164 電話番号にダイヤルすると、ローカルまたは国際プレフィックスを知る必要なく、電話機またはデバイスに到達します。また、先頭に+が付く E.164 機能では、以降の電話番号の変換を不要にすることによって、テレフォニー設定プロセス全体を削減できます。

先頭に+が付く E164 番号での電話機の登録

Cisco Unified Cisco Mobility Express では、2つの方法で先頭に「+」が付くダイヤルプランを使用して、電話機を登録します。電話機は内線番号または先頭に+が付く E.164 番号のいずれかで登録できます。

電話機が内線番号で登録される場合、電話機に内線番号とのダイヤルピアアソシエーションがあります。**dialplan-pattern** コマンドは、ダイヤルプランパターンで先頭に+が付く電話番号を設定できるように拡張されました。ダイヤルプランパターンが設定されると、E.164 番号のダイヤルピアを同じ電話機に関連付けることができます。

たとえば、内線番号 1111 で登録された電話機に +13332221111 をダイヤルして到達することもできます。この電話機の登録方法は2つの方法で有益です。つまり、ローカルでは内線番号を

ダイヤルするだけで互いの電話機に到達でき、リモートでは発信ダイヤルピアで E.164 番号に変換される省略番号をダイヤルできます。詳細については、「例 1 (6 ページ)」を参照してください。



- (注) 電話機が内線番号を使用して Unified Cisco Mobility Express に登録される場合があります。ユーザーが完全な +E.164 番号を使用して電話に発信する必要がある場合は、完全な番号に対してダイヤルピアを構成する必要があります。これは、`extension-length` が内線番号と同じ長さになるように指定されている場合にのみ適用されます。

電話機が先頭に + が付く E.164 番号で登録される場合、1 つの先頭に + が付く E.164 番号だけが電話機に関連付けられます。`dialplan-pattern` コマンドの `demote` オプションを使用すると、同じ電話機に 2 つのダイヤルピアを関連付けることができます。ダイヤルピアパターンの構成については、「ダイヤルプランの構成 (8 ページ)」を参照してください。

たとえば、+E.164 電話番号 +12223331111 で登録された電話機には、同じ電話機に 2 つのダイヤルピア +12223331111 と 1111 が関連付けられます。「例 2 (6 ページ)」を参照してください。

例 1

次の例では、電話機が内線番号 1111 で登録されますが、4 桁の内線番号または先頭に + が付く E.164 番号 (+12223331111) をダイヤルすることによって到達できます。ダイヤルピアパターンを構成する際、+E.164 番号にダイヤルすることで、電話機にも入電できます。電話には、4 桁の内線番号または +E.164 番号のいずれかをダイヤルすることで入電できます。

```
!
ephone-dn 1
  number 1111
!
ephone 1
  button 1:1
!
telephony-service
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 4
!
voice register dn 1
  number 1235
!
voice register pool 1
  number 1 dn 1
!
voice register global
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 4
```

例 2

次の例では、先頭に + が付く E.164 番号 (+12223331111) で電話機が登録され、4 桁の内線番号または +E.164 番号のいずれかをダイヤルすることで着電する例を示しています。この例では、1111 または +E.164 番号をダイヤルすることで着電できます。

```
!
ephone-dn 1
  number +12223331111

!
ephone 1
  button 1:1

!
telephony-service
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 4 demote

!
voice register dn 1
  number +12223331235

!
voice register pool 1
  number 1 dn 1

!
voice register global
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 4 demote
```



(注) レガシー電話機には、「+」がないため、ダイヤルプランパターンまたは変換プロファイルを構成します。

例 3

次は、SCCP 電話機で先頭に+が付く E.164 番号 (+12223331111) と SIP 電話機用の +12223331235 で電話機が登録され、6 桁または +E.164 番号のいずれかをダイヤルすると電話機に着電する例を示しています。電話番号 +12223331234 は、降格された 6 桁の番号または +E.164 番号のいずれかをダイヤルすることで着電できます。

```
!
ephone-dn 1
  number +12223331111

!
ephone 1
  button 1:1

!
telephony-service
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 6 demote

!
voice register dn 1
  number +12223331235

!
voice register pool 1
  number 1 dn 1

!
voice register global
  dialplan-pattern 1 +1222333.... extension-length 6 demote
```

降格の CLI を内線長 6 に設定すると、SIP 電話機の場合は 331235、SCCP 電話機の場合は 331111 をダイヤルできます。

コールバックと発信者番号の表示

以前のバージョンの Cisco Unified CME および Cisco Unified SRST では、発信者番号（ご使用の電話機への着信コールを発信した番号）がコールバック（ローカル電話のディレクトリ番号での Missed Calls に表示される番号）と発信者番号の両方に使用されていました。Cisco Unified CME 8.5 の +E.164 機能を使用すると、発信者番号とコールバック番号の両方を、発信する前に電話番号を編集する必要がないように、適切な形式で表示できます。ephone-dn または音声登録 dn モードで **translation-profile outgoing** コマンドを構成する際は、電話機に発信元番号が表示されます。

音声変換プロファイルの **translate callback-number** 構成では、コールバック番号を変換して、それを E.164 形式で表示します。**translate callback number** 構成は、SIP 電話機および SCCP IP 電話機の発信通話にのみ適用されます。**translate callback number** を構成する際は、追加の [コールバック (callback)] フィールドが表示され、番号が変換ルールと一致した場合変換されます。詳細については、[SIP 電話機のコールバック番号用変換ルールの定義 \(23 ページ\)](#) を参照してください。

同様に、Cisco Unified SRST 8.5 では、**voice translation-profile** モードで **translate calling** を構成して、発信元番号を表示します。**call-manager-fallback** モードの **translation-profile outgoing** または **voice register pool** を構成して、コールバック番号を表示します。**translation-profile** の **translate called** コマンドを使用すると、**call-manager-fallback** または **voice register pool** が、変換を行うために着信番号を照合します。詳細については、「[変換プロファイルを有効化](#)」を参照してください。

H323 や QSIG のゲートウェイなどの着信側エンドポイントまたはゲートウェイで E.164 番号の変換の「+」記号がサポートされていない場合、E.164 番号の先頭の「+」が着信者番号と発信者番号から削除されます。**translation-profile incoming** または **translation-profile outgoing** コマンドを使用すると、発信者番号または着信者番号から先頭の「+」記号を削除できます。

ダイヤルプランの構成

SCCP ダイヤルプランパターンの構成



ヒント ルータが 1 台のネットワークでは、ダイヤルプランパターンを定義する必要はありません。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**

3. telephony-service
4. dialplan-pattern tag pattern extension-length length [extension-pattern epattern] [no-reg]
5. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	dialplan-pattern tag pattern extension-length length [extension-pattern epattern] [no-reg] 例： Router(config-telephony)# dialplan-pattern 1 4085550100 extension-length 3 extension-pattern 4.. (注) この例では、内線番号 412 が 4085550112 に対応するように、すべての 4xx 内線番号 を PSTN 番号 40855501xx にマッピングし ます。	短縮内線番号プレフィックスの番号パターンを完全な E.164 電話番号パターンにマッピングします。
ステップ 5	end 例： Router(config-telephony)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

SIP ダイヤルプランパターンの構成

個々の短縮 SIP 内線を完全修飾 E.164 番号に拡張するパターンを作成して適用するには、このセクションの手順に従います。ダイヤルプランパターンの拡張は、発信者番号に影響し、B2BUA を使用した Call Forward では、Cisco Unified Cisco Mobility Express の SIP 内線番号の最初と最後の再ルーティングを含みダイレクトに影響します。

始める前に

Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register global**
4. **dialplan-pattern tag pattern extension-length extension-length [extension-pattern extension-pattern | no-reg]**
5. **call-forward system redirecting-expanded**
6. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register global 例： Router(config)# voice register global	音声登録グローバル構成モードを開始して、Cisco Unified CME でサポートされるすべての SIP 電話機に対してパラメータを設定します。
ステップ 4	dialplan-pattern tag pattern extension-length extension-length [extension-pattern extension-pattern no-reg] 例： Router(config-register-global)# dialplan-pattern 1 4085550... extension-length 5	Cisco Unified CME の SIP 発信者番号の短縮内線番号を完全修飾 E.164 番号に拡張するために使用するパターンを定義します。
ステップ 5	call-forward system redirecting-expanded 例： Router(config-register-global)# call-forward system redirecting-expanded	B2BUA を使用した Call Forward では、最初と最後の再ルーティングを含むダイレクト、Cisco Unified Cisco Mobility Express の SIP 内線番号に対して、ダイヤルプランパターン拡張をグローバルに適用します。
ステップ 6	end 例： Router(config-register-global)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

ダイヤルプランパターンの確認

手順の概要

1. **show telephony-service**
2. SCCP : **show telephony-service dial-peer** または SIP : **show dial-peer summary**

手順の詳細

ステップ 1 show telephony-service

このコマンドを使用して構成内のダイヤルプランパターンを確認します。

例 :

次の例では、内線パターン 4.. をダイヤルプランパターン 4085550155 の最後の 3 桁にマッピングします。

```
telephony-service
dialplan-pattern 1 4085550155 extension-length 3 extension-pattern 4..
```

ステップ 2 SCCP : show telephony-service dial-peer または SIP : show dial-peer summary

このコマンドを使用して、**dialplan-pattern** コマンドが自動作成したダイヤルピアを表示します。

このコマンドを使用して、**dialplan-expansion (voice register)** コマンドを使用して作成したダイヤルピアを含む、ルータに対して構成したすべての VoIP および POTS ダイヤルピアの構成を表示します。

例 :

次の例では、**show dial-peer summary** コマンドからの出力を示します。これは、**dialplan-expansion** コマンドが 6... を 408555... に拡張するよう構成されているため、4 つのダイヤルピアの情報として、内線番号 60001 と 60002 が 4085550001 と 4085550002 と拡張されて表示されます。残りの 2 つのダイヤルピアは、実行コンフィギュレーションでは表示されません。

```
Router# show dial-peer summary
```

TAG	TYPE	MIN	OPER	PREFIX	DEST-PATTERN	PRE	PASS	OUT	
						FER	THRU	SESS-TARGET	STAT
20010	pots	up	up		60002\$	0			0
20011	pots	up	up		60001\$	0			9
20012	pots	up	up		5105550001\$	0			9
20013	pots	up	up		5105550002\$	0			0

Cisco Cisco Mobility Express 3.2バージョン以降の音声変換ルールの定義



(注) Cisco Unified Cisco Mobility Express 3.1 以前のバージョンで、音声通話の変換ルールを構成するには、『[Cisco IOS 音声、ビデオ、FAX 構成ガイド](#)』を参照してください。

始める前に

- SCCP のサポート : Cisco CME 3.2 以降のバージョン。
- SIP のサポート : Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョン。
- トランスレーションルールテーブルあたり最大 100 のトランスレーションルールを定義 : Cisco Unified CME 8.6 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice translation-rule *number***
4. **rule *precedence* /*match-pattern*/ /*replace-pattern*/**
5. **exit**
6. **voice translation-profile *name***
7. **translate {*called* | *calling* | *redirect-called* | *redirect-target*} *translation-rule-number***
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例 : Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice translation-rule <i>number</i> 例 : Router(config)# voice translation-rule 1	音声コールのトランスレーションルールを定義し、voice translation-rule コンフィギュレーションモードを開始します。 • <i>number</i> : 変換ルールで識別する番号。範囲 : 1 ~ 2147483647。
ステップ 4	rule <i>precedence</i> /<i>match-pattern</i>/ /<i>replace-pattern</i>/ 例 : Router(cfg-translation-rule)# rule 1 /^9/ //	トランスレーションルールを定義します。 • <i>precedence</i> — 変換ルールの優先順位。範囲 : 1 ~ 100。 (注) CME 8.5 以前のバージョンでは、範囲は 15 の最大ルールに制限されます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>match-pattern</i>— 着信通話情報の照合に使用する Stream Editor (SED) 表現。スラッシュ (/) はパターンのデリミタです。 • <i>replace-pattern</i>— 通話情報の照合パターンを置換するために使用する SED 表現。スラッシュ (/) はパターンのデリミタです。
<p>ステップ 5</p>	<p>exit</p> <p>例 :</p> <pre>Router(cfg-translation-rule)# exit</pre>	<p>voice translation-rule コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
<p>ステップ 6</p>	<p>voice translation-profile name</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# voice translation-profile name1</pre>	<p>音声コールのトランスレーションプロファイルを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>name</i>— 変換プロファイル名。音声トランスレーションプロファイル名の最大長は 31 文字の英数字です。
<p>ステップ 7</p>	<p>translate {called calling redirect-called redirect-target} translation-rule-number</p> <p>例 :</p> <pre>Router(cfg-translation-profile)# translate called 1</pre>	<p>トランスレーションルールを音声トランスレーションプロファイルに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • called — 変換ルールを着信者番号に関連付けます。 • calling — 変換ルールを発信者番号に関連付けます。 • redirect-called — 変換ルールをリダイレクトされた着信者番号に関連付けます。 • redirect-target — 変換ルールを転送先番号と通話転送最終宛先番号に関連付けます。このキーワードは Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョンの SIP 電話機でサポートされます。 • <i>translation-rule-number</i> — ステップ 3 (12 ページ) で構成した変換ルールの参照番号。範囲 : 1 ~ 2147483647。
<p>ステップ 8</p>	<p>end</p> <p>例 :</p> <pre>Router(cfg-translation-profile)# end</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

次のタスク

- Cisco Unified Cisco Mobility Express 3.2 以降のバージョンに接続された SCCP 電話機に音声変換プロファイルを適用するには、「[Cisco Unified Cisco Mobility Express 3.2バージョン以降の SCCP 電話機に音声変換ルールを適用 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。
- 音声変換プロファイルを Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1 以降のバージョンに接続された SIP 電話機に適用するには、「[Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1バージョン以降の SIP 電話機に音声変換ルールを適用 \(17 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco Cisco Mobility Express 3.4 または Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.0(x) に接続された SIP 電話機に音声変換プロファイルを適用するには、「[Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1バージョン以前の SIP 電話機に音声変換ルールを適用 \(18 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 3.2バージョン以降の SCCP 電話機に音声変換ルールを適用

SCCP 電話機のディレクトリ番号との間で着信コールまたは発信コールに音声トランスレーションプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

始める前に

- Cisco CME 3.2 以降のバージョン。
- 適用する音声トランスレーションルールを含む音声トランスレーションプロファイルが、すでに設定されていること。構成情報については、[Cisco Cisco Mobility Express 3.2バージョン以降の音声変換ルールの定義 \(11 ページ\)](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn** タグ
4. **translation-profile {incoming | outgoing} name**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-dn タグ 例： <pre>Router(config)# ephone-dn 1</pre>	<p>ephone-dn コンフィギュレーション モードを開始して、Cisco Unified IP フォン回線、インターコム回線、ページング回線、ボイスメールポート、またはメッセージ受信インジケータ (MWI) に対する内線番号 (ephone-dn) を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>tag</i>—構成タスク中に、この ephone-dn を識別する一意のシーケンス番号。範囲は 1 からルータのプラットフォームで許可される ephone-dn の最大数までです。この引数の最大値については、CLI のヘルプを参照してください。
ステップ 4	translation-profile {incoming outgoing} name 例： <pre>Router(config-ephone-dn)# translation-profile outgoing name1</pre>	<p>Cisco Unified IP Phone との間の着信コール レッグまたは発信コールレッグに対してトランスレーション プロファイルを割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ephone-dn テンプレートを使用して、1 つ以上のディレクトリ番号にこのコマンドを適用することもできます。ephone-dn テンプレートを使用してコマンドを適用し、同じディレクトリ番号に対して ephone-dn コンフィギュレーション モードで同じコマンドを使用する場合は、ephone-dn コンフィギュレーションモードで設定する値が優先されます。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-ephone-dn)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 3.2 バージョン以前の SCCP 電話機に変換ルールを適用

Cisco CME 3.1 以前のバージョンで個々のディレクトリ番号に対してトランスレーションルールを適用するには、次の手順を実行します。

始める前に

適用する変換ルールは、**translation-rule** および **rule** コマンドを使用して構成する必要があります。構成情報については、『Cisco IOS ビデオ、ビデオ、FAX 構成ガイド』を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn tag**
4. **translate {called | calling} translation-rule-tag**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-dn tag 例： Router(config)# ephone-dn 1	ephone-dn コンフィギュレーションモードを開始して、Cisco Unified IP フォン回線、インターコム回線、ページング回線、ボイスメールポート、またはメッセージ受信インジケータ (MWI) に対するディレクトリ番号を作成します。
ステップ 4	translate {called calling} translation-rule-tag 例： Router(config-ephone-dn)# translate called 1	設定しているディレクトリ番号に適用するルールを指定します。 • translation-rule-tag — 以前構成した変換ルールの参照番号。範囲：1 ~ 2147483647。 • ephone-dn テンプレートを使用して、1つ以上のディレクトリ番号にこのコマンドを適用できます。 ephone-dn テンプレートを使用してディレクトリ番号にコマンドを適用し、同じディレクトリ番号に対する ephone-dn コンフィギュレーションモードでも同じコマンドを使用する場合は、 ephone-dn コンフィギュレーションモードで設定する値が優先されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	end 例： Router(cfg-translation-profile)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1 バージョン以降の SIP 電話機に音声変換ルールを適用

SIP 電話機のディレクトリ番号に対する着信コールに音声トランスレーションプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

始める前に

- Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョン。
- 適用する音声トランスレーションルールを含む音声トランスレーションプロファイルが、すでに設定されていること。構成情報については、[Cisco Cisco Mobility Express 3.2 バージョン以降の音声変換ルールの定義 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register dn *dn-tag***
4. **translation-profile incoming *name***
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	voice register dn dn-tag 例： <pre>Router(config)# voice register dn 1</pre>	音声登録 DN 構成モードを開始して、SIP 電話機のディレクトリ番号、インターコム回線、音声ポート、またはメッセージ待機インジケータ (MWI) を定義します。
ステップ 4	translation-profile incoming name 例： <pre>Router(config-register-dn)# translation-profile incoming name1</pre>	このディレクトリ番号に対する着信コールレグに対してトランスレーションプロファイルを割り当てます。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-register-dn)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1 バージョン以前の SIP 電話機に音声変換ルールを適用

設定済みの音声トランスレーションルールを適用して、SIP 電話機の拡張機能によりダイヤルされる番号を変更するには、次の手順を実行します。

始める前に

- Cisco CME 3.4 以降のバージョン。
- 適用する音声トランスレーションルールが、すでに設定されていること。構成情報については、[Cisco Cisco Mobility Express 3.2 バージョン以降の音声変換ルールの定義 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool pool-tag**
4. **translate-outgoing {called | calling} rule-tag**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register pool <i>pool-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 3	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。
ステップ 4	translate-outgoing {called calling} <i>rule-tag</i> 例： Router(config-register-pool)# translate-outgoing called 1	設定している SIP 電話機に適用する設定済みの音声トランスレーションルールを指定します。
ステップ 5	end 例： Router(config-register-global)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified Cisco Mobility Express で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

音声変換ルールとプロファイルの確認

音声トランスレーション プロファイルとルールを確認するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **show voice translation-profile** *[name]*
2. **show voice translation-rule** *[number]*
3. **test voice translation-rule** *number*

手順の詳細

ステップ 1 **show voice translation-profile** *[name]*

このコマンドによって、1 つまたはすべてのトランスレーションプロファイルの設定が表示されます。

例：

```
Router# show voice translation-profile profile-8415

Translation Profile: profile-8415
  Rule for Calling number: 4
  Rule for Called number: 1
  Rule for Redirect number: 5
  Rule for Redirect-target number: 2
```

ステップ2 show voice translation-rule [number]

このコマンドによって、1 つまたはすべてのトランスレーションルールの設定が表示されます。

例：

```
Router# show voice translation-rule 6

Translation-rule tag: 6
  Rule 1:
  Match pattern: 65088801..
  Replace pattern: 6508880101
  Match type: none   Replace type: none
  Match plan: none   Replace plan: none
```

ステップ3 test voice translation-rule number

このコマンドによって、トランスレーションルールをテストできます。

例：

```
Router(config)# voice translation-rule 5
Router(cfg-translation-rule)# rule 1 /201/ /102/
Router(cfg-translation-rule)# exit
Router(config)# exit
Router# test voice translation-rule 5 2015550101

Matched with rule 5
Original number:2015550101   Translated number:1025550101
Original number type: none   Translated number type: none
Original number plan: none   Translated number plan: none
```

SCCP 電話機用セカンダリダイヤルトーンのアクティブ化

電話機ユーザーが指定の番号にダイヤルした後に、セカンダリダイヤルトーンをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

始める前に

- Cisco CME 3.0 以降のバージョン。
- PSTN アクセス プレフィックスが、発信ダイヤルピアに対して設定されていること。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **secondary-dialtone** *digit-string*
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	secondary-dialtone <i>digit-string</i> 例： Router(config-telephony)# secondary-dialtone 9	<i>digit-string</i> をダイヤルする際にセカンダリダイヤルトーンをアクティブ化します。 • <i>digit-string</i> ダイヤルした場合に、セカンダリダイヤルトーンをアクティブにする最大 32 桁の文字列。通常、 <i>digit-string</i> は、事前定義された PSTN アクセスペレフィックスです。
ステップ 5	end 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SIP 電話機用セカンダリダイヤルトーンのアクティブ化

電話機ユーザーが指定の番号にダイヤルした後に、セカンダリダイヤルトーンをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

始める前に

- SIP 電話機の場合は、Cisco Unified Cisco Mobility Express 11.6 以降のバージョン

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register dialplantag**
4. **type 7940-7960-others**
5. **pattern tag string**
6. **voice register pool タグ**
7. **dialplan タグ**
8. **voice register global**
9. **create profile**
10. **voice register pool タグ**
11. **reset**
12. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register dialplantag 例： Router(config)# voice register dialplan 1	音声登録ダイヤルプラン構成モードを開始します。 • <i>tag</i> — ダイヤルプランタグの範囲は 1 ~ 24 です。
ステップ 4	type 7940-7960-others 例： Router(config-register-dialplan)# type 7940-7960-others	割り当てられた電話機のタイプを指定します。
ステップ 5	pattern tag string 例： Router(config-register-dialplan)# pattern 1 30,	電話からダイヤルするときに照合するパターンを指定します。範囲は 1 ~ 24 です。 • <i>tag</i> — パターンタグの範囲は 1 ~ 24 です。 • <i>string</i> — 電話からダイヤルするときに照合するパターンを指定します。この文字列は WORD として表示され、この文字列の値は [0-9.*#] の組み合わせにすることができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	voice register pool タグ 例： Router(config-register-dialplan)# voice register pool 1	音声登録プールタグを定義し、音声登録プール構成モードを開始します。
ステップ 7	dialplan タグ 例： Router(config-register-pool)# dialplan 1	プールに接続するダイヤルプランを指定します。
ステップ 8	voice register global 例： Router(config-register-pool)# voice register global	音声登録グローバル構成モードを開始します。
ステップ 9	create profile 例： Router(config-register-global)# create profile	電話機の XML 構成ファイルを作成します。
ステップ 10	voice register pool タグ 例： Router(config-register-global)# voice register pool 1	音声登録プールタグを定義し、音声登録プール構成モードを開始します。
ステップ 11	reset 例： Router(config-register-pool)# reset	適用される電話構成のために電話をリセットします。
ステップ 12	end 例： Router(config-register-pool)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SIP 電話機のコールバック番号用変換ルールの定義

始める前に

- トランスレーションルールテーブルあたり最大100のトランスレーションルールを定義：
Cisco Unified CME 8.6 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice translation-rule *number***

4. `rule precedence | match-pattern | replace-pattern |`
5. `exit`
6. `voice translation-profile name`
7. `translate { callback-number | called | calling | redirect-called | redirect-target }
translation-rule-number`
8. `exit`
9. `voice register pool phone-tag`
10. `number tag dn dn-tag`
11. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice translation-rule number 例： Router(config)# voice translation-rule 10	音声コールのトランスレーションルールを定義し、 voice translation-rule コンフィギュレーションモードを開始します。 • <i>number</i> — 変換ルールで識別する番号。範囲は 1 ~ 2147483647 です。
ステップ 4	rule precedence match-pattern replace-pattern 例： Router(cfg-translation-rule)# rule 1 /^9/ //	トランスレーションルールを定義します。 • <i>precedence</i> — 変換ルールの優先順位。範囲は 1 ~ 100 です。 (注) CME 8.5 以前のバージョンでは、範囲は 15 の最大ルールに制限されます。 • <i>match-pattern</i> — 着信通話情報の照合に使用する Stream Editor (SED) 表現。スラッシュ (/) はパターンのデリミタです。 • <i>replace-pattern</i> — 通話情報の照合パターンを置換するために使用する SED 表現。スラッシュ (/) はパターンのデリミタです。
ステップ 5	exit 例：	voice translation-rule コンフィギュレーションモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(cfg-translation-rule)# exit	
ステップ 6	voice translation-profile name 例： Router(config)# voice translation-profile eastern	音声コールのトランスレーションプロファイルを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • name—変換プロファイル名。音声トランスレーションプロファイル名の最大長は 31 文字の英数字です。
ステップ 7	translate {callback-number called calling redirect-called redirect-target} translation-rule-number 例： Router(cfg-translation-profile)# translate callback-number 10	トランスレーションルールを音声トランスレーションプロファイルに関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"> • callback-number : トランスレーションルールをコールバック番号に関連付けます。 • called : トランスレーションルールを着信者番号に関連付けます。 • calling : トランスレーションルールを発信者番号に関連付けます。 • redirect-called : トランスレーションルールをリダイレクトされた着信者番号に関連付けます。 • redirect-target : トランスレーションルールを転送先の数とコール転送の最終的な宛先の数に関連付けます。このキーワードは Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョンの SIP 電話機でサポートされます。 • translation-rule-number— ステップ 3 (24 ページ) で構成した変換ルールの参照番号。範囲：1 ~ 2147483647
ステップ 8	exit 例： Router(cfg-translation-profile)# exit	voice translation-profile コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 9	voice register pool phone-tag 例： Router(config)# voice register pool 3	音声レジスタプールコンフィギュレーションモードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。
ステップ 10	number tag dn dn-tag 例： Router(config-register-pool)# number 1 dn 17	ディレクトリ番号を、設定する SIP 電話機に関連付けます。 <ul style="list-style-type: none"> • dn dn-tag— 音声登録 dn コマンドが定義したこの SIP 電話機のディレクトリ番号を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	end 例 : Router(config-translation-profile)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、コールバック番号に対して定義された変換ルールを示します。

```

!
!
voice service voip
ip address trusted list
  ipv4 20.20.20.1
  media flow-around
  allow-connections sip to sip
!
!
voice translation-rule 10
!
!
voice translation-profile eastcoast
!
voice translation-profile eastern
  translate callback-number 10
!

```

次のタスク

- 音声変換プロファイルを Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1 以降のバージョンに接続された SIP 電話機に適用するには、「[Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.1 バージョン以降の SIP 電話機に音声変換ルールを適用 \(17 ページ\)](#)」を参照してください。

ダイヤルプラン機能の構成例

SCCP 電話機でのセカンダリダイヤルトーンの構成例

```

telephony-service
  fxo hook-flash
  load 7910 P00403020214
  load 7960-7940 P00305000600
  load 7914 S00103020002
  load 7905 CF7905040000SCCP040701A
  load 7912 CF7912040000SCCP040701A
  max-ephones 100
  max-dn 500
  ip source-address 10.153.233.41 port 2000
  max-redirect 20
  no service directed-pickup
  timeouts ringing 10
  system message XYZ Company

```

```
voicemail 7189
max-conferences 8 gain -6
moh music-on-hold.au
web admin system name admin1 password admin1
dn-webedit
time-webedit
!
!
!
secondary-dialtone 9
```

SIP 電話機でのセカンダリダイヤルトーンの構成例

パターンにコンマ (',') が見つかり、電話機でセカンダリダイヤルトーンが再生されます。この例では、数字 50 の後にセカンダリダイヤルトーンが再生されます。

```
voice register dialplan 1
  type 7940-7960-others
  pattern 1 50,

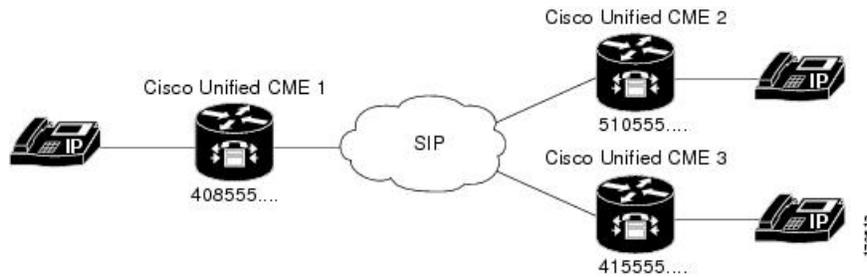
voice register pool 1
  busy-trigger-per-button 2
  id mac 0C11.6780.52A3
  type 7841
  number 1 dn 1
  dialplan 1
  dtmf-relay rtp-nte
  username cisco1 password cisco
  codec g711ulaw
  no vad
  provision-tag 1
```

音声変換ルールの構成例

次の構成例は、Cisco Unified Cisco Mobility Express 1 のユーザーが、9415550100 をダイヤルし、通話が、ダイヤルピア 9415 とユーザー変換プロファイル *profile-9415* に一致したことを示しています。着信番号は、変換ルール 1 を使用して、**translate called** コマンドが指定した通り、9415550100 から 415550100 に変換されます。

Cisco Unified CME 1 のユーザが 5105550120 をダイヤルして Cisco Unified CME 2 上の電話機にコールし、コール自動転送番号が 9415550100 の場合、Cisco Unified CME 1 は 9415550100 に対するコールの転送を試みます。その後、[連絡先: (Contact:)] フィールドが 415550100 に変換された状態の 302 メッセージが Cisco Unified Cisco Mobility Express 1 に送信されます。302 メッセージが Cisco Unified CME 1 に到達すると、このメッセージは、ダイヤルピア 510 の 302 メッセージ (5105550120) の To: フィールドと一致します。415550100 から 8415550100 への着信変換が実行され、ダイヤルピア 8415 と一致する 8415550100 の INVITE が送信されます。

図 1: SIP コール転送のトランスレーションルール



Cisco Unified Cisco Mobility Express 1 with 408555... dialplan-pattern	Cisco Unified Cisco Mobility Express 2 with 510555... dialplan-pattern
<pre>dial-peer voice 9415 voip translation-profile outgoing profile-9415 destination-pattern 9415555... session protocol sipv2 session target ipv4:10.4.187.177 codec g711ulaw voice translation-profile profile-9415 translate called 1 translate redirect-target 1 voice translation-rule 1 rule 1 /^9415/ /415/</pre>	<pre>dial-peer voice 8415 voip translation-profile outgoing profile-8415 destination-pattern 8415555... session protocol sipv2 session target ipv4:10.4.187.177 codec g711ulaw dial-peer voice 510 voip translation-profile incoming profile-510 destination-pattern 510555... session protocol sipv2 session target ipv4:10.4.187.188 codec g711ulaw voice translation-profile profile-8415 translate called 1 translate redirect-target 2 voice translation-profile profile-510 translate called 3 voice translation-rule 1 rule 1 /^9415/ /415/ voice translation-rule 2 rule 2 /^415/ /9415/ voice translation-rule 3 rule 1 /^8415/ /415/</pre>

ダイヤルプラン機能の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1:ダイヤルプラン機能の機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	機能情報
ダイヤルプランパターン	4.0	接続先への自動転送または転送が、個々の短縮 SIP 内線番号または SIP 電話機に表示される内線番号である場合の通話自動転送および通話転送に対する、ダイヤルプランパターン拡張のサポートが追加されました。
	2.1	内線番号を E.164 電話番号に拡張する場合に内線番号から先頭の数字パターンを削除します。内線番号パターンの長さは、extension-length 引数に設定される値と同じにする必要があります。
	1.0	内線番号を E.164 番号に変換するための内線番号のプレフィックスを追加しました。
E.164 の機能拡張	8.5	E.164 の拡張機能のサポートが追加されました。
2 次ダイヤル トーン	11.6	SIP 電話機でのセカンダリダイヤル トーンのサポート。
	3.0	指定した番号文字列をダイヤルした後の 2 次ダイヤル トーンがサポートされました。
音声トランスレーション ルール	8.6	トランスレーション テーブルごとにサポートされるトランスレーション ルールの数が増えました。以前の値は最大 15 で、新しい値は最大 100 です。
	4.1	SIP 電話機のディレクトリ番号への着信コール レッグに対する、音声トランスレーション プロファイルのサポートが追加されました。
	3.4	SIP 電話機の拡張機能によってダイヤルされる番号を変更するための、音声トランスレーション ルールのサポートが追加されました。
	3.2	指定した ephone-dn で着信または発信するコールに対して、番号が追加、削除、または変換されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。